第1課　読むことから理解することへ

【暗唱聖句】

「フィリポが走り寄ると、預言者イザヤの書を朗読しているのが聞こえたので、「読んでいることがお分かりになりますか」と言った」使徒8:30

【日曜日・キリストーダニエル書の中心】

**「そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された」ルカ24:27**

**「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証をするものだ」ヨハネ5:39**

聖書はすべてキリストを証しています。預言書として知られるダニエル書も同様です。

1章…ダニエル達が祖国を離れバビロンで生活を強いられたように、キリストは天国を離れて地上で生活された。

2章…ネブカドネツァル王の夢は、最後にキリストの王国が樹立されることを現わしていた。

3章…燃える炉の中で3人の若者を守られたのはキリストだった。

4章…ネブカドネツァルが高慢になり獣のようになることで、地上を支配しておられるのが神（キリスト）であることが示された。

5章…ペルシャツァルも同様に、キリストの手が文字を書き、支配者が誰かを示された。

6章…真実の神を拝ませないようにするサタンの力に対するダニエルの信仰の勝利。ちなみに、3章は偽物の神を拝ませようとするサタンの働きと若者たちの信仰の勝利。

7章…ダニエルの夢のうちに人の子（キリスト）が天の雲に乗って現れ、世の支配と統治が告げられる。

8章…天の聖所におけるキリストの奉仕と聖所の回復。

9章…十字架のキリストの預言。

10章～12章…ミカエルとしてのキリスト。悪の勢力との闘いと勝利。

【月曜日・ダニエル書の構造】

ダニエル書は2章から7章にかけて中心的なメッセージが語られており、2章と7章がバビロニア帝国からのちに起こる国々の幻、3章と6章が燃える炉や獅子の穴から救出される信仰者の物語、そして4章と5章がバビロニア帝国の王ネブカドネツァルとペルシャの王ペルシャツァルに対する裁き、という具合に対になるサンドイッチ構造となっています。同じような物語が2度繰り返されるということは、まずそれが重要であるということを意味しています。ヨセフの物語で、エジプトの王ファラオに7年の豊作と7年の飢饉が来ることを意味する夢を2度見せられましたが、これもその夢の内容が重要であることを示すためでした。

また、サンドイッチ構造の中心にくる二人の王への裁きは、特に重要なメッセージであることを示しています。それは世界を支配しているかのように思える巨大な帝国の王でさえ、神様の支配下にある、つまり歴史を動かしているのは神であるということを、ダニエル書は中心テーマとして教えているのです。預言書はこれから何が起こるのかということに目が行きがちですが、そうではなく歴史の中心に常にキリストがおられることを教えているのです。そして、「この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます」（ダニエル2:44）とあるように、この地上の国は次々に変わり混沌としていますが、やがてそれらは滅ぼされ、神様によって永遠の国が樹立されます。わたしたちの希望がここにあります。

【火曜日・ダニエル書の終末論的預言】

ダニエル書は終末論的預言が書かれています。旧約聖書の預言者たちが主の言葉を受けとった古典的預言とは異なる点がいくつかあります。まず、主に夢と幻によって神様のメッセージが伝えられていることです。次に象徴が数多く出てくることです。さらに重要なポイントとして、古典的預言は神とイスラエルとの契約という背景に基づき、しばしばイスラエルの不信仰・不従順によって左右されましたが、終末的預言は無条件で、人間の選択に関わらず必ずそれは起こります。

　たとえば、ニネベの町に裁きが下るというヨナの預言は、ニネベの人々が悔い改めたために起こりませんでした。しかし、ダニエル書の4つの国の興亡、その他の預言は必ずその通りに実現することになりますし、実際にわたしたちはそれを歴史的に見てきました。

【水曜日・神の時間の尺度】

ダニエル書に解釈には、預言書はすべて過去に成就したとみなす過去主義、同じその預言が未来に成就すると考える未来主義、過去未来問わず霊的に解釈できるとする理想主義、そしてその預言者の時代から終わりの時代に至るまで、途切れることのない神様の歴史を明らかにしていると考える歴史主義などの解釈があります。ＳＤＡは、全体としては歴主義的な立場を取ります。ただ広い視野を持ってみていくことも大切なので、色々な解釈があることは理解しておくと役立ちます。

　ダニエル書の時の解釈において、1日を1年と解釈します。これは民数記14:34やエゼキエル4:5，6の御言葉から来るものですが、この1日1年の解釈を当てはめることによって、たとえばイエス様について預言された70週の預言が、エルサレムの再建命令が出てから490日後ではなく、490年後に起こることでぴたっと当てはまることになります。

【木曜日・ダニエル書の現代的関連性】

ダニエル書は2500年以上も前に書かれたものですが、現代生きているわたしたちにも深く関係しています。その中でも3つのポイントを押さえておくことが大切です。

1. 神は私たちの人生を支配しておられること…物事がうまく行っていないように思われるときでも、神の支配の中にあり、神はわたしたちに最善をなしてくださいます。4人の若者がバビロンに連れて来られて、様々な困難を経験しましたが、神様が共におられて完全に守ってくださいました。わたしたちも同様に守ってくださいます。
2. 神は歴史の進路を導いておられること…歴史の進路は常に神様が導いておられることがダニエル書を通してはっきりとわかります。この世界は政治家たちの思いのままに動いているかのようで、不安を感じることがあるかもしれませんが、すべては神様の御手の中にあることを覚えましょう。
3. 神は終末時代のご自分の民のために模範となる人を与えて下さったこと…ダニエルや若者たちは、神様への信仰に硬く立つわたしたちの模範です。終わりの時代に、信仰が試されるときが来ます。彼れはまず食事の問題で試されました。次に、ダニエルは正しい神を拝むなと強要され、3人の若者たちは偶像を拝むように強要されました。しかし、それらに動ずることなく、彼らは信仰を貫きました。